

緊急提案

雨水貯留は簡単でしかも震災等の災害時の非常用水源として極めて有効です。復興に当たって、雨水貯留施設を住宅や避難施設に設置する重要性を行政の方々市民の方々にお知らせしたいと思い提案します。

雨水ネットワーク九州
樋井川流域治水市民会議

震災復興に当たっては、緊急用水、流出抑制、環境用水を目的に各家、集合住宅、公民館、学校、体育館、病院、公園などに雨水貯留施設を設置することを提案します。

なぜ？

水は命の源です。大震災時には飲料水、トイレ用水、洗濯用水、風呂用水などが水道の断水によって、極端に不足します。各住宅、避難所、病院などに水の貯留施設があれば、極端な水の困窮を防ぐことができます。水が無くなってきても雨が降れば自動的に給水できることも特徴です。また、火災時の消火用水、洪水に対する流出抑制、日常時のトイレ用水や草花への水やり、ビオトープへの水の供給、打ち水用水など多面的な利用ができます。上水の節約はCO2の削減にも寄与します。

どのように？

住宅やビルに水を確保する方法は色々あります。地面の中に貯水槽や砂利槽を設置する、雨水タンクを設置するなどが代表的な方法です。復興の際には住宅やビルの建て替えを行うところも多くあると思いますが、新設時に駐車場の地下や住宅の基礎部を利用すれば、コストを安く抑えることができます。

どの程度の量を貯めればいいのか？

現在、福岡では1世帯当たり6m³を目標に、雨水貯留を進めています。6m³あれば、トイレ用水や草花への水やりを行いさらに緊急用水を確保することが可能です。避難所では、飲料用水、トイレ用水、洗濯用水が特に必要とされ、神戸の震災の調査では1人1日当たり20～40ℓの水が必要であったことがわかっています。これらを目安に貯留を進めます。ちなみに1日20ℓであれば、30日で1人600ℓ、300人で180m³になります。小学校の体育館が540m³程度であれば地下に1mの貯水槽を作れば、540m³の水を貯留できます。この規模の小学校であれば、避難者受け入れの目安が300人ですので、540m³の貯水槽があれば十分に対応可能であることがわかります。

雨水の水質は？

雨水は蒸留水ですから、基本的にきれいな水です。ただし、流出の過程で空中の塵や屋根の堆積物などを含むため降雨初期の水は少し汚れています。ただし、草木の水やり、トイレ用水としてはそのまま使うことが可能です。飲料水や風呂水として利用する時には膜処理などが必要となりますが、避難所などには簡易な処理施設を設置することも考えられます。平常時は電気を使って配水しますが、停電時のために手押しポンプを設置する必要があります。